～事務所締まります～

8月16日㈮ 夏季休暇
8月23日㈮ 午後のみ
　小金井平和盆踊りのため
9月 2日㈪ 書記局会議

あしば

第537号

発行所
東京土建一般労働組合
小金井国分寺支部
国分寺市東恋ヶ窪2-36-32
電　話 042-324-5940
発行責任者
中川和美

日本の朝鮮植民地の歴史

日本の朝鮮統治時代は、1910年の韓国併合条約により始まり、1945年の第二次世界大戦終結まで続きました。この時期、朝鮮人は日本による厳しい統治、文化の抑圧、経済的搾取、そして強制労働に直面しました。

1、朝鮮の文化、教育

日本政府は朝鮮の政治、経済、文化の各面に深く介入し、日本化政策を推進しました。例えば、朝鮮人に日本式の名前の使用を強制したり、日本語の使用を奨励するなど、朝鮮の伝統と文化を抑圧しました。文化と教育面で朝鮮の学校では、日本語教育が強制され、朝鮮の歴史や文化を軽視するカリキュラムが導入されました。

2、朝鮮人徴用と労働問題

第二次世界大戦中、日本政府は戦争努力を支えるために朝鮮人徴用政策を実施しました。多くの朝鮮人が日本本土や満州などの工場、鉱山で強制労働させられました。この政策は、日本の人手不足を補うために始められ、徴用された朝鮮人は過酷な労働条件と人権侵害に直面しました。徴用は、朝鮮人に対する日本の支配と搾取の象徴となり、今日に至るまで多くの論争の原因となっています。

韓国・嘉泉(かちょん)大学へ留学

女子大生の綾さん平和を語る

直属分会・片桐由輝さんの３姉妹の長女

韓流スター大好き中学生 留学きっかけで日本の歴史知る

7月に行なわれた都知事選挙では、ヘイトスピーチする候補者がいるなど、これまで以上に外国人に対する差別が表立ってきました。戦後79年。平和とは何か。今回、現役大学生の片桐綾（りょう）さんに韓国留学を通じて感じた平和についてまとめてもらいました。綾さんは2022年に大学へ入学し、2023年2月から1年間韓国へ留学してきました。

嘉泉大学のお友だち。左からノミンちゃん（モンゴル）、キヌコちゃん（日本）、綾ちゃん（小金井）、メイちゃん（ミャンマー）

韓流人気が今ほどではなかった私が中学生のころに友人を通じて韓国に興味を持った。それを機に韓国について調べるようになったが、歴史的なことを調べることはなく、ほとんどがエンタメについてであった。アイドルのコンテンツや歌を通し、簡単な単語などは覚えたが、知らない韓国文化が多くあり、言語だけではなく文化も一緒に学べる環境に行きたいと思い留学を決意した。

留学前は学校で習う歴史の知識のみで、またそれはリスニングの授業ができないほどの爆音で、韓国が朝鮮としてのもので、無意識のうちに、どこか今の韓国とは切り離している部分があった。しかし兵役制度がある韓国で、街に出ると軍服姿の男性をよく目にした。私が留学していた大学は、韓国軍基地の隣に位置しており、戦闘機の訓練中痛感させられた。

韓国を植民地にしていた日本

大学の語学堂に通う中で、韓国以外の国のことも知るきっかけになった。授業の一環で自国の歴史を紹介する時、『昔日本に植民地支配されていた』と自国を紹介する友人が多くいた。このことは韓国の歴史だけを学習し、日本について何も学習してこなかったことを後悔するきっかけとなった。

日本に対する好意と複雑な思い

留学中、ソウルのカフェでは日本旅行の予定を立てている人や日本の映画やアニメの話で盛り上がっている人を多く見かけ、韓国の若者は日本に肯定的な印象を持っていると感じた。しかしそのような人ばかりではないことも事実で、ライブ配信などに入ってきた日本人リスナーを追い出したり、カフェで日本語を話していると嫌な顔をされることもあった。ある日、地元の市場で買い物をしていると、50代ぐらいの店主の方が、『日本人なのか』と声をかけてきたことがあった。

戦争の明と暗を学びたい 日韓問題の解決へ

日本での韓流ブームは健在で、いたるところに「韓国風○○」など韓国に関連したワードが多くみられる。日常的に韓国に関わることが多い日本の若者は、韓国に対して肯定的な印象を持っていると感じる。食べ物、メイク、ファッション、何をとっても日常に韓国を取り入れていることが多く、韓国に触れる場面は多い。しかし韓国アイドルや、俳優が好きな人が増加しているが、彼らの国である韓国の歴史について知ろうとしている人が少ないのが実態だ。文化の面では、韓国人も日本のアニメ、映画などに関心を持ち、日本人も韓国のドラマやアイドルに関心を持っているという友好的関係がある。しかし政治的には、日韓の友好関係は不安定であると感じる。韓国人の友人とは、少しデリケートな話題であるため、深くは話し合えなかったが、歴史は歴史で解決しなくてはならない問題として認識しており、過去と今を分けて考えていた。韓国にも事実を誇張した歴史教育を受けた若者ものがいるかもしれないが、日本が韓国に対し謝辞を述べ、償っていかなければならない事実は変わらない。一日でも早く日韓問題が解決し、文化だけでなく政治的にも友好な関係を築き、平和が訪れることを願っている。

韓国ソウル戦争博物館で装甲車内を見学

侵略戦争の総括必要

【東小分会・朝倉 法明】

新宿住友ビルの33Fにある平和祈念展示資料館を紹介します。日中戦争ソ連軍が行った日本兵のシベリア抑留の歴史を展示している施設で、入場無料（国が後援）。5回は来ていますが何回来ても納得がいきません。

日本人で留学中だと伝えると、『日本人は韓国人のことが好きではないだろ』と質問された。会話の中で私は韓国も韓国人も好きだと伝えたが、店主は何とも言いようのない表情を返してきた。実際に日本人に対して複雑な思いを持つ方がいることを身をもって感じた瞬間であった。

抑留、捕虜政策は国際法違反。しかしそのそもそもに起因する、日本帝国主義の侵略戦争への総括批判の展示がない。毎回ここは国の施設だからしょうがないかと思いいつもガッカリ。一方からかではない歴史を伝えてほしい。

もらえる冊子

朝顔

▼湾岸戦争やユーゴ空爆では無辜の地域住民を殺傷する空からの攻撃への非難をかわすため精密誘導兵器によるピンポイント爆撃を強調し、バイデン政権は人道的なテロ作戦と自画自賛しているが実際には多くの民間人が巻き添えになってしまった▼昨今の最前線での戦闘では、パソコンの画面を見ながらドローンを操縦し塹壕や戦車を見つけ爆弾を投下。民間で短期間に大量生産可能で何より兵士の命を危険にさらすことなく敵を攻撃できる。ウクライナとロシアは、戦場に大量の無人機を投入し、その有効性を実証することとなった。十万円で八億円の戦車が破壊できるのは非常にコスパがよろしいようで、防衛省自衛隊も使用を拡大していく方針を打ち出している▼ＡＲＢの石橋凌さんは語る「音楽や絵で戦争を止めるのは難しいけど、一般の人たちの意識を突くということが必要だと思う。今の状況っていうのは決して政治家だけのせいじゃなく、ものを言わない人が増えているっていうことが一番の原因じゃないかな」▼近年覇権主義を強める隣国の影響で日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増しており国内ではかつてない危機感が漂っている。強力な国防力が必要と考える向きは理解できるが、戦争の無意味さをこの時期にこそ鑑みてみよう。

うだるような暑さの下平和訴え

原水爆禁止世界大会に参加する仲間も

【小①分会・鴨下　典正】

土建も参加している平和盆踊り夏休み、小学生の時友達と一緒に行っていた。

会場には原爆の写真が展示されていて皮膚がただれたもの、包帯をぐるぐる巻きにされているものどれを見ても怖いなぁと思って見たのを覚えている。

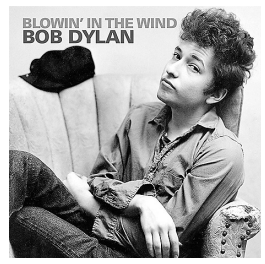
今では映像で流れて来てやはり怖いと言う気持ちは変わらない。原爆は広島、長崎に投下されて多くの命を奪い多くの人々に深い傷をのこしている。子どもを連れて行った時、その写真を見て戦争の悲惨さと平和の尊さを感じる。

ボブ・ディランが1962年に発表した反戦歌Blowin in wind（風に吹かれて）戦争と平和について問いかける歌詞が印象的です。

日本ではRCサクセションがカバーしています。

【風に吹かれて♪】

どれだけ遠くまで歩けば　大人になれるの？
どれだけ金を払えば満足できるの？　どれだけミサイルが飛んだら戦争が終わるの？　その答えは風の中さ　風が知ってるだけさ



ボブディランのジャケット

女子大生、女子高生がコールを担当

ノリノリで歩いた平和行進

【平和】核兵器廃絶を訴えて歩いた2024年の平和行進。7月21日㈰にうだるような暑さのなか、支部から10人の仲間が参加しました。コロナ対策でこの4年あまり、国分寺駅でのスタンディングアピールとなっていた国分寺コース（多摩蘭坂から本多公民館）も今年は元通り行進することとなり、5年ぶりに立川から小金井公園までのコースがつながりました。

参加者の高齢化が進むなか、今年の行進は原水爆禁止世界大会へ参加する学生ツアーの青年をはじめ、JK（女子高生）やJD（女子大生）も参加する明るい行進となりました。小金井コース（本多公民館から小金井公園）では、急遽JDたちがコーラーとなりノリノリな二拍子のピースコール（原発いらない♪今すぐやめる♪など）は、沿道の方からも注目を浴びました。核兵器の廃絶は私たちの未来を左右する重要な問題です。青年が核廃絶という重い苦しい課題を楽しみながら訴えた今回の平和行進は、まさに未来への希望です。来年はぜひあなたも一歩でも二歩でも。

白井小金井市長（手前）も参加した小金井地域の平和行進

アピールしながら平和行進

1958年1人の青年から始まった

1958年に1人の青年が原水爆禁止を訴えて、広島の原爆記念碑の前から8月に東京で開催される第4回原水爆禁止世界大会に向けて歩き出したことが平和行進のはじまりです。

はじまりは一人でしたが、日を経るごとに一緒に歩く人が増え、世界大会の会場である早稲田大学に到着した時には、1万人を超える大行進となっていました。部分的に参加した人も含めると100万人を超えたといわれています。

平和行進でコールを担当した片桐３姉妹左から綾ちゃん（長女）、舜ちゃん（三女）、李來ちゃん（次女）

海外デモは老若男女当たり前
歴史を学び積極的な行動を

【直属分会・片桐綾（片桐由輝さん長女）】

今回の平和行進では、今崩れつつある日本の憲法の平和精神を守りたいという思いと、これから自分や友人、姉妹が生きていく日本が、平和で安心して生活できる環境であってほしいという願いから参加した。

街を練り歩いている中で、私たち団体は、多くの注目を浴びていたが、その注目は肯定的なものばかりではなかったと感じる。自分も参加者の人数を見て、これは本当に意味があるのか、想いは届くのかと思う瞬間もあったが、平和を願う人が一人でもいる限り、続けていく必要がある活動だと思った。

海外のニュースでのデモ行進の様子を見ると、そこに参加している人は、老若男女問わずたくさんおり、自分たちの意見を持ち、それを伝えようと努力する姿が見受けられる。

一方で日本人は自分の意見があったとしても、どこかあきらめを感じることが多くある。

自分たちが生きていく今後の日本、世界をより良くしたいと思うのであれば、もっと積極的に行動するべきであり、その行動を起こすためには、日本について、世界についてもっと学習すべきではないかと思う。

要求はがきを書いて土建国保を守ろう

国保予算1047人で要求
安定運営実現に向け前向き発言も

【社会保障対策部】

7月12日、午前中は対都要請行動として、各局・会派との交渉、ならびに都庁第二庁舎前での集会に全体1047人が参加しました。小金井国分寺支部からは、19人が参加しました。都費補助金の現行水準確保をはじめ、東京都に対し、我々の切実な、様々な要求の実現に向けた要請を行いました。

対都交渉では、支部から大久保社保対部長が保健医療局へ、産業労働局には鯉淵委員長が代表として参加しました。

保健医療局交渉では、東京都連の代表50人の交渉団で臨み、都費補助金現行水準確保を中心に要請し、都側からは「(皆さんの)命の綱である国保組合の一層の安定運営実現へ向けて取り組んでいく」など、全体的に前向きな回答がありました。

午後からは、日比谷野外音楽堂に移動し、全建総連「賃金・単価引上げ予算要求中央総決起大会」に参加し(全体2001人)、各省庁への要請を行なうなど、2025年度予算確保に向けた運動の取り組みをスタートさせました。

予算要求集会

10人で社会保障推進委員会開催

【社会保障対策部】

7月25日、支部会議室において、社保対部会兼保健対推進委員会を開催し10人が参加しました。講師に池田健康増進課次長をお招きして、「予算要求運動と健康増進活動を通じて、仲間の命と暮らしを守る取り組みを推進しよう!」というタイトルで、講演していただきました。

主な内容としては、①国保補助金獲得に向けたはがき要請行動と地元議員要請の必要性、②健康保険証存続に向けた取り組み、③集団健診・特定保健指導の推進を中心に学習しました。

参加者からは土建国保を守るために、保健活動とはがき要請行動の取り組みを行っていこうとありました。

編集後記

気が付いた方も多いはず。今月号は同じ人がたくさん登場。事務局で病欠が続出し残った者たちで仕上げました。お先に言い訳です。

毎回大好評の射的コーナー

遊びに行こう

平和盆踊り

8月23日㈮

午後5時半から午後8時
小金井市営グラウンド
（小金井市桜町2-2-31）

東京土建もダーツや輪投げ、射的などを出店します。
ぜひ遊びに来てね。
青年部の射的ではこのチラシを持ってきたちびっ子に射的の玉3発プレゼント！